

第28回廃棄物資源循環学会研究発表会

G8 埋立処理処分研究部会小集会

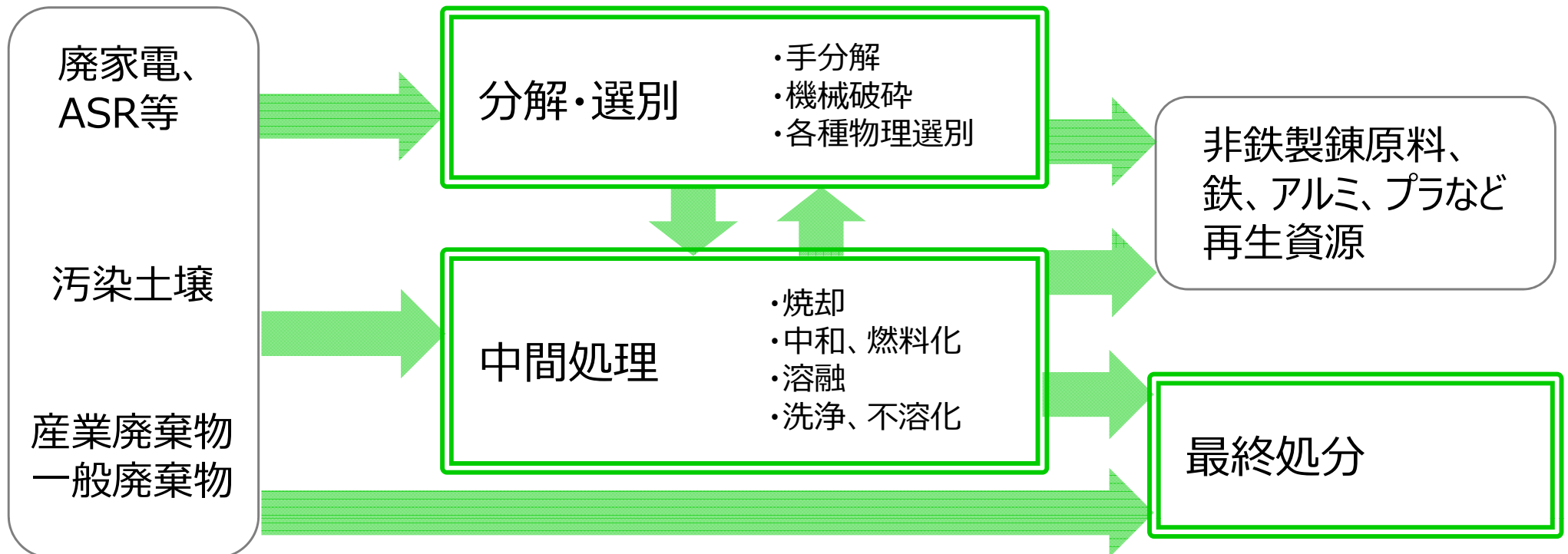
私が考える現在の埋立処分の課題

2017年9月8日

DOWAエコシステム株式会社 椿 知子

- 貴金属・銅など非鉄金属の鉱山・製錬業を祖業とするDOWAグループの、環境・リサイクル事業会社
- 主な事業は、①廃棄物処理、②土壌の調査・浄化、③金属などのリサイクル、これらに付随する物流や現地工事・コンサルティング

■ 当社の廃棄物処理フロー



- 日本国内2か所、東南アジア3か国で最終処分場を運営

所在	埋立開始	構造	総容量※	主なごみ質
秋田県小坂町	2004	多重遮水、準好気	270万m ³	焼却残渣
秋田県大館市	1987	多重遮水、準好気	200万m ³	焼却残渣
インドネシア	1994	多重遮水、嫌気	500万m ³	汚泥
タイ	2000	多重遮水、嫌気	240万m ³	有機物・プラ等
ミャンマー	2016	多重遮水、準好気	87万m ³	有機物・プラ等

※海外の総容量は、現在建設着手済の容量までを示す



わたしが考える埋立処分の位置付け

：長期的に集中管理を行う場所、 新たな平地もしくは堤体

わたしが考える埋立処分（廃棄物処理システム）の課題



- 適正なコストを負担する排出者がいる場所でのみ、廃棄物処理サービスが行える
- 必要な社会インフラでも、合理的な対話・手続きが取れなければ、なかなかつukれない

- 地道な日々の操業管理と地域コミュニケーションによる信頼が、最大の支え
- 浸出水の塩類対策、入荷物からの有用金属選別、易分解性有機物への前処理など、先行事例を参考に技術導入を進め、廃棄物処理システムの一部として より望ましい埋立処分を行っていきたい



タイ、近隣の学校へ図書施設を寄贈した際の記念写真



インドネシア、近隣の学校へ備品を寄贈した際の記念写真

【余談】

緑化を行う際には、樹種選定に注意しましょう！

実がなる木（シイ、サクラ、ナナカマド他）には、獣が来ます。

(秋田県HPより)

